

「こどものあそび場についてのアンケート調査」結果報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学大学院 公開日: 2012-01-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 池田, 豊彦 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/11270

「こどものあそび場についてのアンケート調査」結果報告

A Report of “An inquiry about Places in Children’s Play”

博士後期課程建築学専攻3年次生

池 田 豊 彦

Toyohiko IKEDA

はじめに

本稿は、昭和57年6月から8月に、明治大学都市計画研究室にて私が担当し実施した、「こどものあそび場についてのアンケート調査」の調査結果報告である。この調査は主に、いくつかの都市地域の児童のあそびの現状と、児童が希望しているあそび場所のタイプについて、さらに児童の親が必要と考える子どものあそび場所のタイプについて、その概略的傾向を把握しようとしたものである。調査の内容は簡易なものとし、豊富な情報を期待し精密な統計的推論を行うことを意図したものではなく、むしろ子どものあそび場の計画的研究において予想される問題の所在を少しでも明確化することを意図している。後述するように、あいにく調査票の回収率は低く、確定的な推論はできないが、上に述べた意図の下に、調査結果から読み取れるいくつかの傾向を推測の一つの可能性として（またその限りにおいて）提示することはできるであろう。

本稿の構成は下に記すとおりであるが、報告の最後部4においては調査結果を考慮した上で、子どもの多岐にわたる戸外のあそび場所全体を見渡す時、場所の形態的側面と同時に、今まで比較的整理されて論じられることの少かった場所の内容的側面も重要な研究課題となることを明らかにしたいと思う。

- 1 調査の主旨
- 2 調査の方法及び内容
- 3 調査結果及び考察
 - (1) 回答者の属性
 - (2) 子ども達がよくしているあそび
 - (3) 子ども達が希望するあそび場所
 - (4) 親が必要と思う子どものあそび場所
- 4 調査結果が指示すること
 - (1) 調査結果の要約
 - (2) 子どものあそび場の計画における問題点

1 調査の主旨

ある地域の子どもの、戸外でのあそび活動にとって、物的環境をより良いものにするとはどのようなことを意味し、具体的にはどのような物的な環境問題を孕んでいるのだろうか。今回の調査の主旨は、このような曖昧ではあるが基本的な問題意識から派生している。

ところで、建造物によって稠密に覆われた都市地域では、誘致圏の概念を軸に、児童公園等の都市公園が配され、活発な子どもの戸外でのあそび活動のためのスペースが確保されつつある。けれども児童公園等の整備基準は、主に「どのように」それを設置するかにかかわるものである。いわゆる固定遊具等の公園施設が基準化され、「どのような」場所かについてもほぼ一律化されているとはいえ、そこは、大人の目にあそび活動として同定し易く、物的施設（固定遊具等）によって効率よく保障することのできる子どもの感覚運動的な身体活動を中心に扱ってきたように思う。それは確実に子ども達にとって必要なスペースとなっていると思われるが、子ども達の戸外でのあそび活動の多様性を考えれば、地域の物的環境全体があそび場所としての可能性をもっているわけであり、基準化された内容をもつ公園の確保だけでなく、多様なあそび活動に応ずる地域環境が目指されてしかるべきであろう。この課題に対しては、地域環境の中に「どのような」あそび場所が望まれているのかが、一つの重要な問題となる。

また、各地域の物的環境は、その構成要素自身、及び要素の構成のされ方々々において様々な程度で他地域とは異った特質をもっている。従って、自ら地域により、子ども達の戸外でのあそび活動にとって望まれるあそび場所のタイプも、ある程度異ってくるのが予想される⁽¹⁾。

今回の調査では、以上に述べた「どのようなあそび場所」が望まれているのか、を子ども達の意識において⁽²⁾概略的に把握し、同時に予想されるその地域的相違の存在を確認することが主な目的である。さらに、子ども達が現在どのようなあそびをよくしているかを知り、彼等が希望しているあそび場所にどう対応しているのか、また子ども達が希望するあそび場所と大人（親）の望む子どものあそび場所との対応についても概観したい。

2 調査の方法及び内容

まず対象者としては、子ども自身に記入してもらうため、調査票に示す言葉が充分理解されねばならないことを考慮して、小学校3年生以上とし、3学年を取って小学校5年生以下とした。この年層の子ども達は、幼児～児童期を通して最も多様なあそび活動を展開していると思われ、多様なあそび場所を考慮しようとする調査には適当な対象者であろう。また、「どのようなあそび場所が望まれているか」を子どもについて知ると同時に、子どもと大人の意識の異同を知るために、対象児童の親（父親あるいは母親）をも対象とした。

- ・調査対象者：対象地域に住む小学校3、4、5年生及び父親又は母親

表1 調査対象地域の主要データ

項 目	千束3丁目	砧3丁目	百合ヶ丘1丁目	東青梅2、3丁目
所 在 地	東京都台東区	東京都世田谷区	神奈川県川崎市	東京都青梅市
面 積	12.2 ha	19.1 ha	23.8 ha	33.7 ha
人 口	3,478人	3,092人	3,076人	2,991人
人 口 密 度	285.1人/ha	161.9人/ha	129.5人/ha	88.8人/ha
児童数(6~12歳)	285人	281人	298人	324人
児 童 密 度	23.4人/ha	14.7人/ha	12.5人/ha	9.6人/ha
用 途 地 域	商 業 地 域	住居地域及び第1種住居専用地域	第2種住居専用地域、第1種住居専用地域近隣商業地域	第2種住居専用地域、準工業地域、第2種特別工業地域、及び商業地域
備 考	人口及び児童数は昭和57年4月1日現在の値			

対象地域は、表1に示した4地域である。それぞれ東京都心部からの距離の異なる地域の市街地であり、人口密度も都心に真近の千束3丁目（以下〈千束〉と記す）から、最も遠い東青梅2、3丁目（以下〈東青梅〉と記す）にゆくに従い、漸次減少している。また、子どものあそび活動に深くかかわる地域の空地状況については、次頁及び次々頁に、建物の部分を黒塗りした地図を参考として掲げる⁽³⁾。〈千束〉では空地とはほとんど道路及び路地に等しい状況であり、次に建物の稠密な〈砧〉では、まとまった空地が点在するものの、一つの公園を除けば他は子ども達が利用できないものである。〈百合ヶ丘〉と〈東青梅〉では、むしろ人口密度の高い〈百合ヶ丘〉の方が空地の割合が大きいと見られるが、これは中層住宅団地地区を抱えているためである。

以上の4地域の調査対象者に対して、調査票の配布、回収ともに郵送による方法⁽⁴⁾で、2地域ずつ2回に分けて、昭和57年6月から8月の夏期に調査を実施した。配布数その他については表2に示したが、調査票の回収をも郵送によったため、全般に回収率は低く、特に〈千束〉では子ども23.0%、

表2 アンケート調査実施概要

項 目	〈千束〉		〈砧〉		〈百合ヶ丘〉		〈東青梅〉	
	子ども	大人	子ども	大人	子ども	大人	子ども	大人
調査票郵送日	7月9日		6月23日		6月23日		7月9日	
回収締切日	8月15日		7月20日		7月20日		8月15日	
配 布 数	135	123	130	119	125	120	141	127
回 収 数	31	30	50	46	49	49	51	48
回収率(%)	23.0	24.4	38.5	38.7	39.2	40.8	36.2	37.8
備 考	1世帯に対象児童1人とは限らないため、子どもと大人の配布数が異なる							

图 1 〈千 束〉



图 2 〈砦〉



図3 〈百合ヶ丘〉

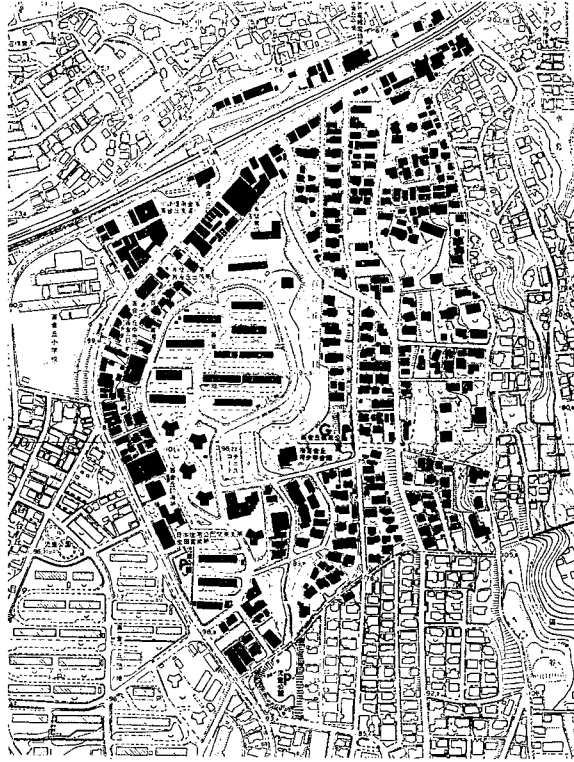
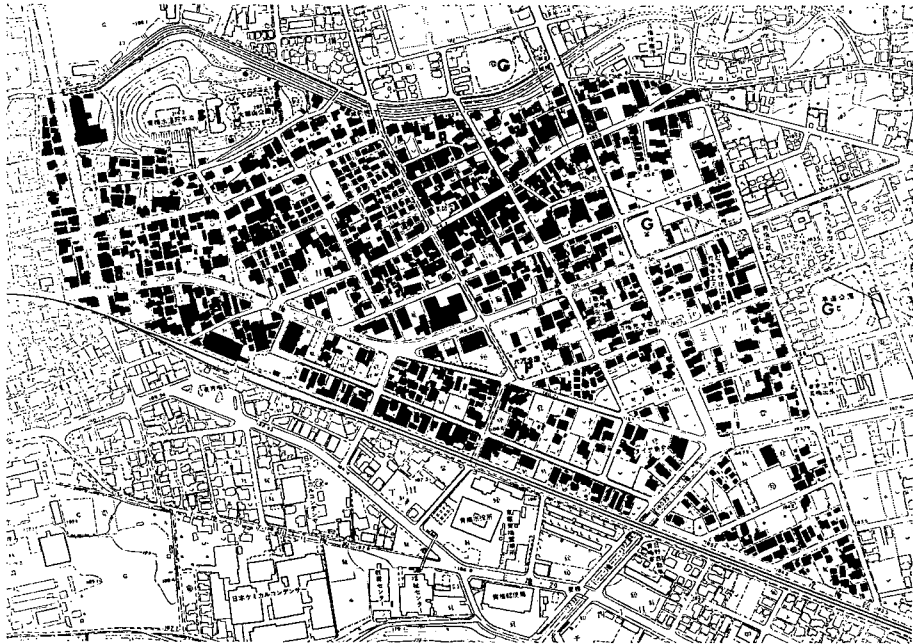


図4 〈東青梅〉



※ なお野球（9人制）のできる広さをもつ公園にはGその広さのない公園にはPを記入してある。

・アンケート調査票

◎ こどものあそび場についてのアンケート調査

～～こども用～～～小学3年生から5年生のかたに～～

1. あなたは、いくつですか。 ()才
2. あなたは、男女のどちらですか。
○をつけてください。 (男・女)
3. あなたは、どんなことをしてよくあそびますか。
よくやるあそびに○をつけてください。(いくつつけてもいいです。)
1 ボールあそび 2 ドッジボール 3 やきゅう 4 おにごっこ
5 カンけり 6 かくれんぼ 7 ゴムとび 8 ローラースケート
9 じてんしゃのり 10 めんこ 11 木のぼり 12 スペリだい
13 ブランコ 14 ジャングルジム 15 すなあそび 16 ままごと
17 草や花をつむ 18 ムシをつかまえる 19 さかなとり・つり
20 いぬやねことあそぶ 21 もけいつくり 22 きちごっこ
23 きちやくれがをつくる 24 ゲームセンターであそぶ
ほかによくやるあそびがあったら、かいてください。

4. つぎのうち、あそぶのにもっとほしいところはどれですか。
二つえらんで、○をつけてください。
ア. 木のぼりやブランコおそびなどができるところ
イ. かくれがをつくったりきちあそびなどができるところ
ウ. カブトムシやザリガニなどをつかまえたりできるところ
エ. やきゅうやドッジボールなどができるひろいところ
オ. カンけりやかくれんぼなどができるところ
カ. 草や花や木の実をとったりしてあそべるところ
キ. いろんなガラクタでなにかをつくったりできるところ

どうもありがとうございました。

◎ こどものあそび場についてのアンケート調査

～～大人用～～～～～～～～～～～～～～～～

1. あなたの年齢は、 ()才
2. あなたの性別は、 (男・女)
3. あなたのお住まいの地域では、こども達のあそびにとって、どのようなあそび場所がもっと必要だと思いますか。下のア～ケの中から、最も必要と思うものを二つ選んで、○をつけてください。
ア. いろいろな遊具であそべるところ
イ. 「アスレチック」のようなあそびができるところ
ウ. 虫や小魚などの生息する自然的なところ
エ. 自転車などを乗り回せる安全な道路
オ. いろいろな小動物と接することができるところ
カ. 野球やサッカーなどができる広いところ
キ. かくれ家を作ったり基地あそびなどができるところ
ク. いろいろな廃品・廃材で何かを作ったりできるところ
ケ. その他 ()
4. こどものあそび場について、何かご意見がありましたらお書きください。特に、「児童公園」等についてあなたが感じることを聞かせて頂ければ幸いです。

ご協力どうもありがとうございました。

大人24.4%と極めて低く、他はほぼ40%弱となった。

次に具体的な調査内容は前頁に示した調査票のとおりである。子どもに対する紙上調査では、殊に小学校低学年以下では言葉の問題が大きいと考えられるが、ここではそれを考慮して、漢字はなるべく避け、できる限り平易な表現とすることに努めた。設問は、年齢、性別の他には、子ども達の代表的なあそびと思われるもの⁽⁵⁾を列記した中からよく行うあそびを多項選択してもらうものと、具体的なあそび場所⁽⁶⁾の中からもっとほしい場所を二項選択してもらうもの。それだけに留めた簡易なものである。対象児童の親に対する設問も、年齢、性別、具体的なあそび場所の中から子ども達に必要と思うものを二項選択してもらうもの、そして子どものあそび場についての意旨を自由に記述してもらうもの、というやはり簡易なものである。この最後の自由記述の設問は、今後の研究の参考にさせてもらうことを意図したものであり、本稿の調査結果報告には含めなかった。

なお、私の不注意から、子どもの学年を知るための設問が欠落してしまった。このため学年別の集計ができず年齢別の集計をすることになり、後述するように11歳児童が8、9、10歳に比べて極めて少い結果となった。

3 調査結果とその考察

(1) 調査回答者の属性

表3に、調査回答者の属性の集計を示した。子どもの回答者は総計181人、男女比はほぼ半々であ

表3 回答者の属性（全地域及び地域別）

属性	全地域		〈千 東〉		〈砒〉		〈百合ヶ丘〉		〈東 青 梅〉			
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比		
子ども	性別	男	85	47.0	12	38.7	25	50.0	26	53.1	22	43.1
		女	96	53.0	19	61.3	25	50.0	23	46.9	29	56.9
		計	181	100.0	31	100.0	50	100.0	49	100.0	51	100.0
	年齢別(歳)	8	45	24.9	9	29.0	14	28.0	10	20.4	12	23.5
		9	59	32.6	9	29.0	17	34.0	20	40.8	13	25.5
10		61	33.7	10	32.3	15	30.0	15	30.6	21	41.2	
11		16	8.8	3	9.7	4	8.0	4	8.2	5	9.8	
計	181	100.0	31	100.0	50	100.0	49	100.0	51	100.0		
大人	性別	男	72	41.6	19	63.3	17	37.0	27	55.1	9	18.8
		女	101	58.4	11	36.7	29	63.0	22	44.9	39	81.2
		計	173	100.0	30	100.0	46	100.0	49	100.0	48	100.0
	年層別(代)	20	1	0.6	1	3.3	0	0	0	0	0	0
		30	95	54.9	11	36.8	31	67.4	25	51.0	28	58.3
40		71	41.0	16	53.3	13	28.4	22	44.9	20	41.7	
50~		6	3.5	2	6.6	2	4.4	2	4.1	0	0	
計	173	100.0	30	100.0	46	100.0	49	100.0	48	100.0		

図 5 子ども回答者の性別構成
(地域別)

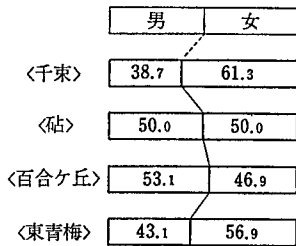
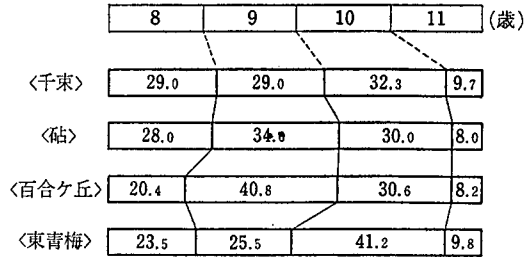


図 6 子ども回答者の年齢別構成 (地域別)



る。年齢別では前述したように11歳児童が極めて少く全体の1割に満たない⁽⁷⁾。子ども回答者の性別及び年齢別構成を地域毎に示すと図5及び図6のようになる。(なお図中の数値の単位はすべて%である。以下も同様)性別では特に<千束>において女子が6割強とやや多い。年齢別構成は、<百合ヶ丘>において9歳児が、<東青梅>において10歳児がそれぞれ他地域は比べて約1割多く、<東青梅>では他地域よりも低年齢の子どもの割合が少い傾向にある。

次に大人回答者は総計173人、男女比はほぼ2:3、年層別にみると30歳代が5.5割、40歳代が4割を占めている。これを地域毎に示すと図7及び図8のようになる。性別構成、年層別構成ともに、地域によってばらつきがあるが、殊に<東青梅>で男が2割弱、女が8割強と大差がある⁽⁸⁾。このことは(4)での結果に大きく影響することが予想されるので、充分考慮する必要があるだろう。年層別ではどの地域も30、40歳代が大部分を占めているが、<千束>では40歳代の回答者が、<砧>においては30歳代の回答者がそれぞれ比較的が多くなっている。

図 7 大人回答者の性別構成
(地域別)

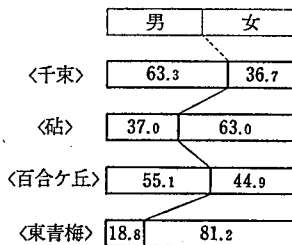
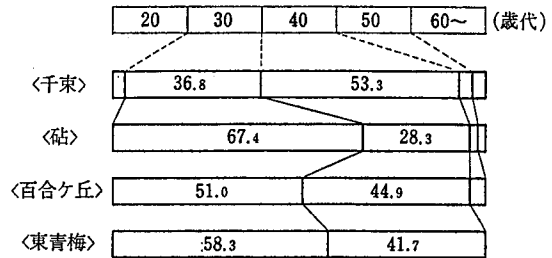


図 8 大人回答者の年層別構成 (地域別)



(2) 子ども達がよくするあそび

子ども用調査票設問3の「あなたはどんなことをしてよくあそびますか。よくやるあそびに○をつけてください。(いくつつけてもいいです。)」に対する回答の全地域での集計を次頁表4に示した。この設問は多項選択であるが、全体的には、24項目の様々なあそびの中から1人約5個のあそびに○を付している。また、男子よりも女子の方が、高年齢よりは低年齢の子どもの方が1人当りの選択数はやや多い傾向となっている。

表4 子どものよくするあそび(全地域)

選 択 項 目 (多 項 選 択)	総 計			男 女 別 集 計						年 齢 別 集 計 (歳)											
	実数	人数比	構成比	男			女			8			9			10			11		
1 ボールあそび	77	42.5	8.1	39	45.9	9.1	38	39.6	7.3	15	33.3	5.4	27	45.8	9.1	25	41.0	8.2	10	62.5	14.3
2 ドッジボール	83	45.9	8.7	39	45.9	9.1	44	45.8	8.4	24	53.3	8.6	26	44.1	8.7	28	45.9	9.2	5	31.3	7.1
3 やきゅう	60	33.1	6.3	49	57.6	11.4	11	11.5	2.1	20	44.4	7.2	22	37.3	7.4	12	19.9	3.7	6	37.5	8.6
4 おにごっこ	29	16.0	3.0	4	4.7	0.9	25	26.0	4.8	10	22.2	3.6	8	13.6	2.7	10	16.4	3.3	1	6.3	1.4
5 カンけり	46	25.4	4.8	26	30.6	6.0	20	20.8	3.8	14	31.1	5.0	11	18.6	3.7	18	29.5	5.9	3	18.8	4.3
6 かくれんぼ	23	12.7	2.4	4	4.7	0.9	19	19.8	3.6	6	13.3	2.2	8	13.6	2.7	9	14.8	3.0	0	0	0
7 ゴムとび	57	31.5	6.0	1	1.2	0.2	56	58.3	10.7	11	24.4	3.9	19	32.2	6.4	21	34.4	6.9	6	37.5	8.5
8 ローラースケート	41	22.7	4.3	16	18.8	3.7	25	26.0	4.8	10	22.2	3.6	14	23.7	4.7	12	19.7	3.9	5	31.3	7.1
9 じてんしゃのり	122	67.4	12.8	63	74.1	14.6	59	61.5	11.3	31	68.9	11.1	40	67.8	13.4	40	65.6	13.1	11	68.8	15.7
10 めんこ	13	7.2	1.4	9	10.6	2.1	4	4.2	0.8	5	11.1	1.8	4	6.3	1.3	4	6.6	1.3	0	0	0
11 木のぼり	25	13.8	2.6	9	10.6	2.1	16	16.7	3.1	8	17.8	2.9	9	15.3	3.0	6	9.8	2.0	2	12.5	2.9
12 スベリだい	27	14.9	2.8	3	3.5	0.7	24	25.0	4.6	11	24.4	3.9	8	13.6	2.7	8	13.1	2.6	0	0	0
13 ブランコ	42	23.2	4.4	9	10.6	2.1	33	34.4	6.3	14	31.1	5.0	15	25.4	5.0	11	18.0	3.6	2	12.5	2.9
14 ジャングルジム	25	13.8	2.6	8	9.4	1.9	17	17.7	3.3	13	28.9	4.7	7	11.9	2.3	5	8.2	1.6	0	0	0
15 すなあそび	26	14.4	2.7	5	5.9	1.2	21	21.9	4.0	9	20.0	3.2	10	16.9	3.4	6	9.8	2.0	1	6.3	1.4
16 ままごと	21	11.6	2.2	0	0	0	21	21.9	4.0	6	13.3	2.2	8	13.6	2.7	6	9.8	2.0	1	6.3	1.4
17 草や花をつむ	23	12.7	2.4	1	1.2	0.2	22	22.9	4.2	6	13.3	2.2	5	8.5	1.7	11	18.0	3.6	1	6.3	1.4
18 ムツをつかまえる	47	26.0	4.9	33	38.8	7.7	14	14.6	2.7	15	33.3	5.4	17	28.8	5.7	13	21.3	4.3	2	12.5	2.9
19 さかなとり・つり	28	15.5	2.9	23	27.1	5.3	5	5.2	1.0	8	17.8	2.9	6	10.2	2.0	11	18.0	3.6	3	18.8	4.3
20 いぬやねことあそぶ	40	22.1	4.2	15	17.6	3.5	25	26.0	4.8	13	28.9	4.7	9	15.3	3.0	16	26.2	5.5	2	12.5	2.9
21 もけいつくり	45	24.9	4.7	42	49.4	9.8	3	3.1	0.6	12	26.7	4.3	9	15.3	3.0	18	29.5	5.9	6	37.5	8.6
22 きちごっこ	21	11.6	2.2	14	16.5	3.3	7	7.3	1.3	7	15.6	2.5	9	15.3	3.0	4	6.6	1.3	1	6.3	1.4
23 きちやかくれがをつくる	22	12.2	2.3	12	14.1	2.8	10	10.4	1.9	6	13.3	2.2	6	10.2	2.0	8	13.1	2.6	2	12.5	2.9
24 ゲームセンターであそぶ	9	5.0	0.9	6	7.1	1.4	3	3.1	0.6	5	11.1	1.8	1	1.7	0.3	3	4.9	1.0	0	0	0
T ○ 数	952	526.0	100.0	430	505.9	100.0	522	543.8	100.0	279	620.0	100.0	298	505.1	100.0	305	500.0	100.0	70	437.5	100.0
T 人数	181			85			96			45			59			61			16		

T○数：各項目に付された○数(実数)の合計

人数比=実数/T人数(%)

T人数：回答者数の合計

構成比=実数/T○数(%)

表 5 子どもの最もよくするあそび

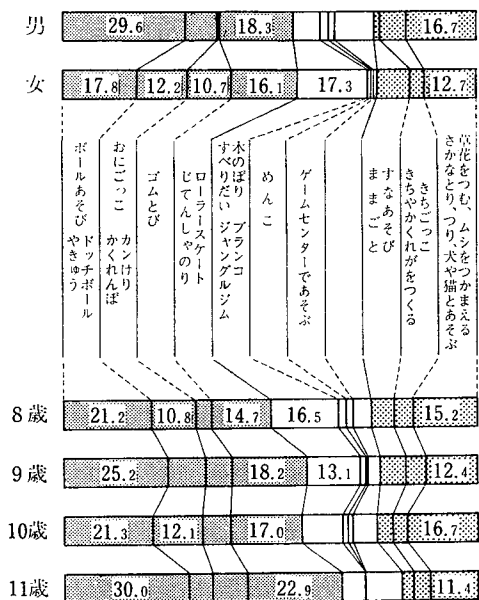
	総 計		男		女			
	あ そ び	人数比 %	あ そ び	%	あ そ び	%		
1	じてんしゃのり	67.4	じてんしゃのり	74.1	じてんしゃのり	61.5		
2	ドッジボール	45.9	や き ゆ う	57.6	ゴ ム と び	58.3		
3	ボールあそび	42.5	もけいつくり	49.4	ドッジボール	45.8		
4	や き ゆ う	33.1	ボールあそび	45.9	ボールあそび	39.6		
5	ゴ ム と び	31.5	ドッジボール	45.9	ブ ラ ン コ	34.4		
	8 歳		9 歳		10 歳		11 歳	
1	じてんしゃのり	68.9	じてんしゃのり	67.8	じてんしゃのり	65.6	じてんしゃのり	68.8
2	ドッジボール	53.3	ボールあそび	45.8	ドッジボール	45.9	ボールあそび	62.5
3	や き ゆ う	44.4	ドッジボール	44.1	ボールあそび	41.0	や き ゆ う	37.5
4	ボールあそび	33.3	や き ゆ う	37.3	ゴ ム と び	34.4	ゴ ム と び	37.5
5	ムシをつかまえる	33.3	ゴ ム と び	32.2	カンけり、もけ いつくり	29.5	もけいつくり	37.5

総計、男女別集計、年齢別集計の各々において、24項目中最も割合の大きい順に5つを並べると表5のようになる。特に「じてんしゃのり」は男女、年齢を問わず、子ども回答者のほぼ7割にあそばれており断然1位である。他は「ドッジボール」「ボールあそび」「やきゅう」の球戯が多い。「ボールあそび」は競技性の薄いものとして示し、低年齢の児童に多く見られることを予想したが、むしろ結果は逆であった。また女子に「ゴムとび」が6割弱みられるのが目立っている。以上のような結果は、子どものあそび活動に関する既存調査においても伺える一般的な傾向を示すものと思われる。但し、設問に掲げられた項目等も異なる故、他調査と直接比較はできないが、以上の結果において「じてんしゃのり」の割合は他調査よりも目立って大きなものとなっている⁽⁹⁾。

他に表4からは、年齢的な差よりも男女差が大きいことがわかる。女子よりも特に男子によく行われるものには、「やきゅう」「もけいつくり」「ムシをつかまえる」「さかなとり・つり」などがあり、逆に男子よりも特に女子に多いものでは「ゴムとび」「ブランコ」「おにごっこ」「スベリ台」「草花をつむ」などが掲げられる。

ここで24個の選択項目の中の類似したあそびを整理し、男女別及び年齢別集計における各々の構成比から、それぞれのあそびクラスの構成を示せば図9のようになる。この図からは、量の比較はできないが、あそび全体の構成のされ方を比較することができよう。まず男女を比較すると、男子において球戯があそび全体の3割を占め、これに「じてんしゃのり」等を加えるだけでほぼ5割を占める。しかし球戯、「おにごっこ」等、「じてんしゃのり」等、そして「ゴムとび」といった主にスペースとしての場所⁽¹⁰⁾にかかわるあそびの占める割合は、男女ともほぼ5.5割強となる。これと同様に、「さかなとり・つり」等、「きちかくくれがをつくる」等、「ままごと」等といった戸外の様々な場所に存在する対象物や操作物⁽¹¹⁾にかかわるあそびの占める割合も、その絶対値こそほぼ2.5割と小さいものの、やはり男女にほぼ等しくみられる。勿論この結果を一般的と見做すことはまだできない。

図9 子どものよくするあそびの構成（男女別、年齢別）



設問項目や調査対象者の諸条件を様々に変えて確かめてみなければならない。他の特徴としては、「スベリだい」等のいわゆる固定遊具等でのあそびが特に女子に多く、球戯とほとんど同じ割合をあそび全体に占めていることがわかる。

次に年齢別では、図中の各あそびクラスの構成には大差はないが、回答者数の極めて少い11歳児の図を控え目に見ても、次の傾向を読み取ることができよう。一つは、主にスペースとしての場所にかかわるあそびの割合は、低年齢よりも高年齢の方が大きくなる傾向にあること、もう一つは、固定遊具等でのあそびの割合は低年齢になるほど大きくなる傾向があること、である。

以上、子ども達がよく行っているあそびを全地域の集計結果に従って述べた。次に地域別の集計結果について述べる。

地域別の集計を次頁の表6に示す。この集計では、設問3.の選択項目の下の「ほかによくやるあそびがあったら、かいてください。」という記述部分に記入されたあそびをも含めた。表6に示したように、その記述回答を、可能なものは類似のあそびクラスの下に※印をつけて記し、不可能なものは「その他」としてある。この結果、回答者一人当たりが掲げたあそびの数はほぼ6個と、全地域の集計よりも1個分多くなった。

まず地域毎に最もよく行われているあそびを5つ、割合の大きい順に並べると表7となる。

「じてんしゃのり」は地域をも問わずやはり1位である。〈東青梅〉では回答者の8割弱にまで達している。続いて種類こそ異なれ球戯が各地域ともに2位、3位となっている。殊に〈東青梅〉に「ドッジボール」の割合が約65%と大きい。4位以下は地域毎に異った特徴がみられる。〈千束〉では「ローラースケート」が4割を越え、球戯に近い値となっている。〈千束〉には「ローラースケー

表6 子どものよくするあそび（地域別、記述回答を含む）

〔多項選択〕

選 択 項 目 (※は記述回答)	〈千 束〉			〈砧〉			〈百合ヶ丘〉			〈東 青 梅〉		
	実数	人数比	構成比	実数	人数比	構成比	実数	人数比	構成比	実数	人数比	構成比
1 ボールあそび	15	48.4	7.5	22	44.0	7.3	21	42.9	7.1	19	37.3	6.4
2 ドッジボール	15	48.4	7.5	20	40.0	6.6	15	30.6	5.1	33	64.7	11.1
3 やきゅう	5	16.1	2.5	17	34.0	5.6	18	36.7	6.1	20	39.2	6.7
※ グロベース、サッカー等	5	16.1	2.5	11	22.0	3.6	7	14.3	2.4	16	31.4	5.4
4 おにごっこ	7	22.6	3.5	10	20.0	3.3	8	16.3	2.7	4	7.8	1.3
5 カンけり	9	29.0	4.5	8	16.0	2.7	15	30.6	5.1	14	27.5	4.7
6 かくれんぼ	7	22.6	3.5	10	20.0	3.3	3	6.1	1.0	3	5.9	1.0
※ タッチかくれんぼ等	2	6.5	1.0	5	10.0	1.7	—	—	—	—	—	—
7 ゴムとび	11	35.5	5.5	14	28.0	4.7	13	26.5	4.4	19	37.3	6.4
※ ゴムだん等	2	6.5	1.0	4	8.0	1.3	1	2.0	0.3	6	11.8	2.0
8 ローラースケート	13	41.9	6.5	7	14.0	2.3	10	20.4	3.4	12	23.5	4.0
9 じてんしゃのり	20	64.5	10.0	30	60.0	10.0	32	65.3	10.8	40	78.4	13.4
10 めんこ	1	3.2	0.5	6	12.0	2.0	4	8.2	1.3	2	3.9	0.7
※ コマまわし等	1	3.2	0.5	—	—	—	1	2.0	0.3	—	—	—
11 木のぼり	3	9.7	1.5	5	10.0	1.7	14	28.6	4.7	3	5.9	1.0
12 スベリだい	7	22.6	3.5	11	22.0	3.6	7	14.3	2.4	2	3.9	0.7
13 ブランコ	8	25.8	4.0	12	24.0	4.0	13	26.5	4.4	9	17.6	3.0
14 ジャングルジム	9	29.0	4.5	6	12.0	2.0	5	10.2	1.7	5	9.8	1.7
※ 鉄ぼう等	—	—	—	5	10.0	1.7	1	2.0	0.3	1	2.0	0.3
15 すなあそび	7	22.6	3.5	6	12.0	2.0	8	16.3	2.7	5	9.8	1.7
16 ままごと	6	19.4	3.0	4	8.0	1.3	7	14.3	2.4	4	7.8	1.3
※ 水あそび	—	—	—	—	—	—	1	2.0	0.3	—	—	—
17 草や花をつむ	4	12.9	2.0	8	16.0	2.7	6	12.2	2.0	5	9.8	1.7
18 ムシをつかまえる	4	12.9	2.0	16	32.0	5.3	16	32.7	5.4	11	21.6	3.7
19 さかなとり、つり	4	12.9	2.0	10	20.0	3.3	7	14.3	2.4	7	13.7	2.3
20 いぬやねことあそぶ	9	29.0	4.5	15	30.0	5.0	6	12.2	2.0	10	19.6	3.4
※ 鳥、カメ等とあそぶ	—	—	—	1	2.0	0.3	1	2.0	0.3	1	2.0	0.3
21 もけいづくり	8	25.8	4.0	11	22.0	3.6	14	28.6	4.7	12	23.5	4.0
※ プラモデル等	—	—	—	—	—	—	2	4.1	0.6	3	5.9	1.0
22 きちごっこ	2	6.5	1.0	7	14.0	2.3	8	16.3	2.7	4	7.8	1.3
23 きちやかくれがをつくる	3	9.7	1.5	5	10.0	1.7	11	22.4	3.7	3	5.9	1.0
24 ゲームセンターであそぶ	3	9.7	1.5	2	4.0	0.7	1	2.0	0.3	3	5.9	1.0
※ その他	10	32.3	5.0	13	26.0	4.3	21	42.9	7.1	22	43.1	7.4
T (○数+※数)	200	645.2	100.0	301	602.0	100.0	297	606.1	100.0	298	584.3	100.0
T 人数	31			50			49			51		

なお、※その他には盤上のゲーム、玩具等でのあそび及び不明のものが多い。

ト」をする割合の大きい女子が多いことの影響もあると考えられるが、この地域の、自動車通行の少ない舗装された路地が、ローラースケートあそびに都合のよい場所を提供しているとも考えられる。また、〈砧〉と〈百合ヶ丘〉において「ムシをつかまえる」あそびが3割強と、「やきゅう」にほぼ同等

表7 子どもの最もよくするあそび(地域別)

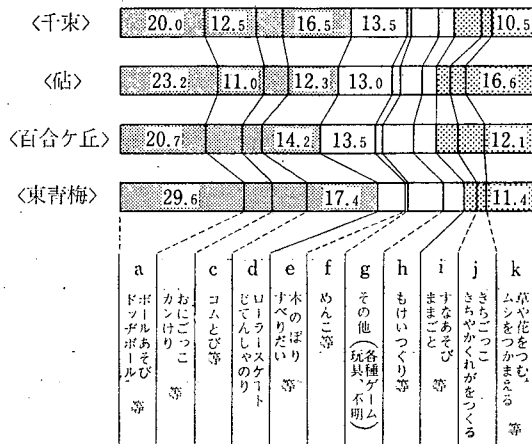
	〈千 束〉		〈砧〉		〈百合ヶ丘〉		〈東 青 梅〉	
		%		%		%		%
1	じてんしゃのり	64.5	じてんしゃのり	60.0	じてんしゃのり	65.3	じてんしゃのり	78.4
2	ボールあそび	48.4	ボールあそび	44.0	ボールあそび	42.9	ドッジボール	64.7
3	ドッジボール	48.4	ドッジボール	40.0	やきゅう	36.7	やきゅう	39.2
4	ローラースケート	41.9	やきゅう	34.0	ムシをつかまえる	32.7	ボールあそび	37.3
5	ゴムとび	35.5	ムシをつかまえる	32.0	ドッジボール	30.6	ゴムとび	37.3

(数値は人数比)

な割合でよくされている。子どもの対象となる虫は〈東青梅〉周辺に最も多いと考えられるが、子どもの虫に対する興味は、虫の最も少い〈千束〉との中間的な2地域で高いと言える。なお〈東青梅〉での割合はほぼ2割にとどまっている。曖昧な推測になるが、〈東青梅〉では周辺に虫が比較的多く珍しいものではないために、〈砧〉や〈百合ヶ丘〉におけるよりは子どもの興味の対象となり難い、ということかもしれない。

ここで、全地域での場合と同様に、地域別の、子ども達がよくするあそびの構成図を示せば図10のようになる。各あそびクラスの構成は、地域間で大きな差はみられない。但し〈東青梅〉でのa球戯の割合が大きい。a～dまでの主にスペースとしての場所にかかわるあそびの占める割合は、やはり〈東青梅〉に多い。逆にi～kの、場所が含んでいる諸々の対象物や操作物にかかわるあそびの割合は、他地域よりも少くなっている。〈千束〉も同様な傾向を示すが、a～dの割合の大きさはbとdの面的な広がりを持て必要としないあそびの割合が大きいためである(これは、〈千束〉に女子の比率が高いためでもある)。〈百合ヶ丘〉では、〈千束〉や〈東青梅〉に対してa～dの割合は小さく、i～kの割合がやや大きくなっている。他の傾向としては、固定遊具等でのあそびの割合が〈東青梅〉に少いことがわかる。

図10 子どものよくするあそびの構成(地域別、記述回答を含む)



しかし、図1～4の各地図間に見られる空地状況の相違に比べて、各地域の子ども達がよくしているあそび全体の構成のされ方は、総じて意外に類似したものであると言えよう。

(3) 子ども達が希望するあそび場所

前節(2)では子ども達がよくしているあそびの現状を見たが、この節では子ども達がどのような場所をあそび場所として望んでいるのかについて見てゆく。設問は「つぎのうち、あそぶのにもっとほしいところはどれですか。二つえらんで、○をつけてください。」というもので、ア～キの選択項目は各々あそび活動の内容との関係を考慮したものである。全地域での集計を表8に掲げるが、ア～キの内容は項目数を切り詰め多様なあそび場所を示そうとしたため、スペース(あそびの媒体空間)としてのあそび場所よりもあそびの対象物や操作物を含むあそび場所の方が多くなっている(ウとカは類似しているが男女差を考慮したものである)。

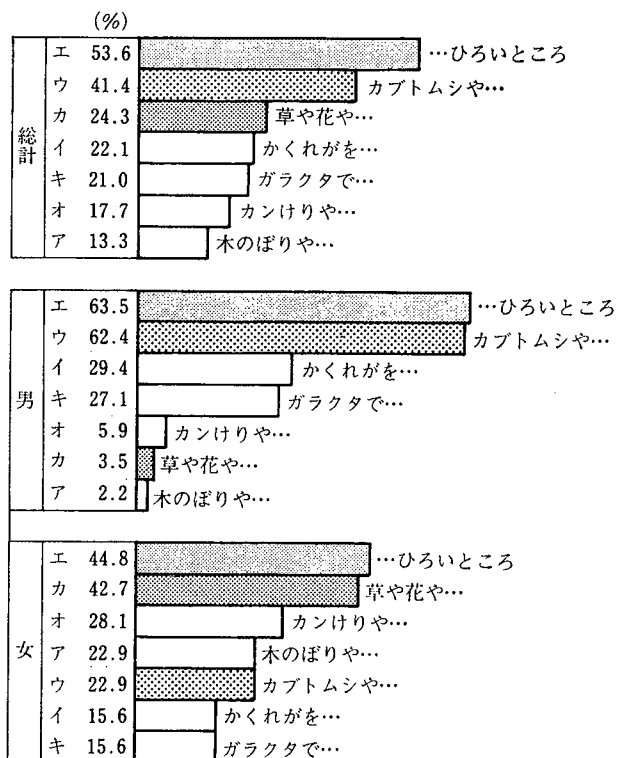
表8から総計及び男女別集計を人数比で図示すると図11のようになる。最初に総計では、子ども達

表8 子ども達の希望するあそび場所(全地域)

(二項選択)

	総計		男女別集計				年齢別集計(歳)								ア～キの内容
			男		女		8		9		10		11		
ア	24		2		22		9		9		6		0		ア. 木のぼりやブランコあそびなどができるところ
	13.3	2.2	2.2	1.2	22.9	11.9	20.0	10.2	15.3	8.9	9.8	4.9	0	0	
イ	40		25		15		8		16		10		6		イ. かくれがをつくったりきちあそびなどができるところ
	22.1	11.4	29.4	15.2	15.6	8.1	17.8	9.1	27.1	14.5	16.4	8.2	37.5	20.0	
ウ	75		53		22		21		23		25		6		ウ. カブトムシやザリガニなどをつかまえたりできるところ
	41.4	21.4	62.4	32.1	22.9	11.9	46.7	23.9	39.0	20.9	41.0	20.5	37.5	20.0	
エ	97		54		43		25		28		34		10		エ. やきゅうやドッジボールなどができるひろいところ
	53.6	27.7	63.5	32.7	44.8	23.2	55.6	28.4	47.5	25.5	55.7	27.9	62.5	33.3	
オ	32		5		27		9		8		12		3		オ. カンけりやかくれんぼなどができるところ
	17.7	9.1	5.9	3.0	28.1	14.6	20.0	10.2	13.6	7.3	19.7	9.8	18.8	10.0	
カ	44		3		41		10		13		20		1		カ. 草や花や木の实をとったりしてあそべるところ
	24.3	12.6	3.5	1.8	42.7	22.2	22.2	11.4	22.0	11.8	23.8	16.4	6.3	3.3	
キ	38		23		15		6		13		15		4		キ. いろんなガラクターでなにかをつくったりできるところ
	21.0	10.9	27.1	13.9	15.6	8.1	13.3	6.8	22.0	11.8	24.6	12.3	25.0	13.3	
T	350		165		185		88		110		122		30		付された○の実数 人数比% 構成比%
○数	193.4	100.0	194.1	100.0	192.7	100.0	195.6	100.0	186.4	100.0	200.0	100.0	187.5	100.0	
T	181		85		96		45		59		61		16		
人数															

図 11 子どもの希望するあそび場所（全地域）

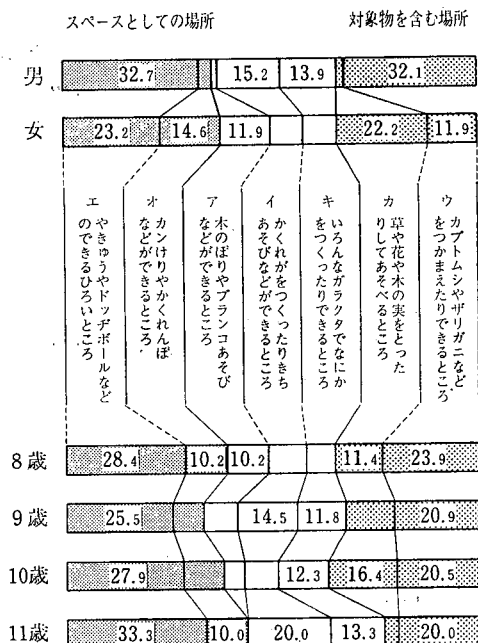


のあそびの現状で球戯が非常によく行われていたことに応ずるように、子ども達の過半数（53.6%）がエ。「やきゅうやドッジボールなどのできるひろいところ」を希望している。次がウ。「カブトムシやザリガニなどをつかまえたりできるところ」（41.4%）でありこの二つに特に希望が多いと言える。ウの希望が多いのは、女子では2割強なの、男子ではエに同等な非常に高い率で望まれていることによる。他は、ア。「木のぼりやブランコあそびなどができるところ」が1割強であるのを除けば、順位こそ異なれ2割前後の希望となった。

男子ではエ、ウが共に6割強で他を圧倒している。調査時期が夏期であったことも影響していると思われるが、カブトムシ等のあそびの対象物への男子の希望は非常に大きい。またイ。「かくれがをつくったりきちあそびなどができるところ」及びキ。「いろんなガラクタで何かをつくったりできるところ」が3割弱で、他の場所への希望は非常に少ない。女子では男子に比べると特に多いものも特に少ないものもない。エ。が45%と最も高率で望まれているが、男子のウ。に代わってカ。「草や花や木の実をとったりしてあそべるところ」が43%とほとんどエ。と同等の割合で望まれている。次はオ。「カンけりやかくれんぼなどができるところ」が約3割となっている。

男女ともに、スペース（あそびの媒体空間）としてのひろい場所と同時に、男女毎のあそびの対象物を含む場所が最も望まれていることになる。

図 12 子どもの希望するあそび場所の構成（男女別、年齢別）



ここで、全地域の子ども達に希望されたあそび場所の構成を、男女別及び年齢別に、図12に示す。まず男女各々の希望するあそび場所の構成を見る。各々の項目を比べると全く異った割合で、あそび活動における男女差の大きさを指示もするが、しかし、エ.とオ。（スペース＝媒体空間としての場所）、そしてウ.とカ。（あそびの対象物を含んでいる場所）をそれぞれ一つのあそび場所のクラスとして見ると、男女間の差異はほとんどなくなる。前節に見た子どものよくするあそびについても相似した現象が見られたが、子どもの希望するあそび場所では、「対象物」を含む場所の割合が等しく

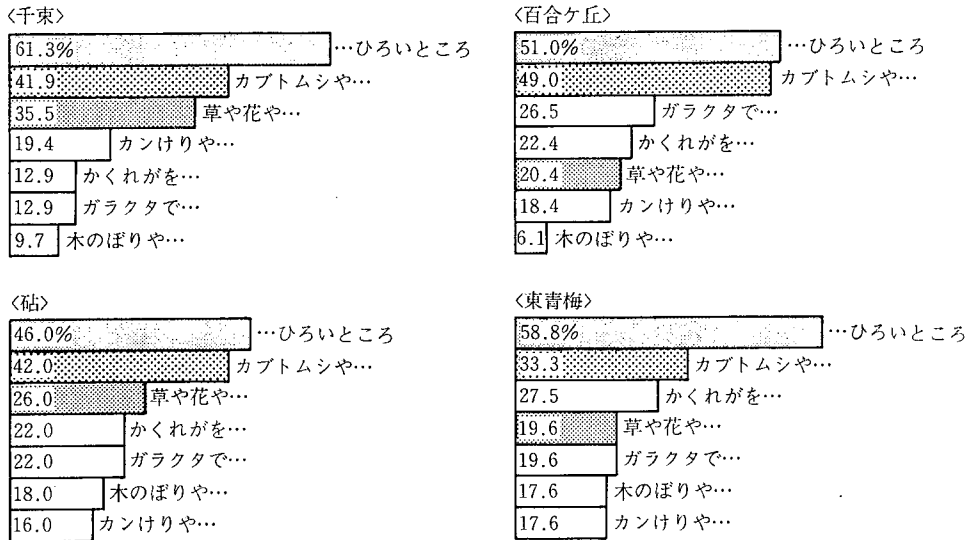
表 9 子どもの希望するあそび場所（地域別）

（二項選択）

項目	〈千 東〉			〈砧〉			〈百合ヶ丘〉			〈東 青 梅〉		
	実数	人数比	構成比	実数	人数比	構成比	実数	人数比	構成比	実数	人数比	構成比
ア	3	9.7	5.0	9	18.0	9.4	3	6.1	3.1	9	17.6	9.1
イ	4	12.9	6.7	11	22.0	11.5	11	22.4	11.6	14	27.5	14.1
ウ	13	41.9	21.7	21	42.0	21.9	24	49.0	25.3	17	33.3	17.2
エ	19	61.3	31.6	23	46.0	24.0	25	51.0	26.3	30	58.3	30.3
オ	6	19.4	10.0	8	16.0	8.3	9	18.4	9.5	9	17.6	9.1
カ	11	35.5	18.3	13	26.0	13.5	10	20.4	10.5	10	19.6	10.1
キ	4	12.9	6.7	11	22.0	11.5	13	26.4	13.7	10	19.6	10.1
T〇数	60	193.5	100.0	96	192.0	100.0	95	193.9	100.0	99	194.1	100.0
T人数	31			50			49			51		

ア. 木のぼりや……
 イ. かくれがを……
 ウ. カプトムシや…
 エ. …ひろいところ
 オ. カンけりや……
 カ. 草や花や……
 キ. ガラクタで……

図 13 子どもの希望するあそび場所（地域別順位）

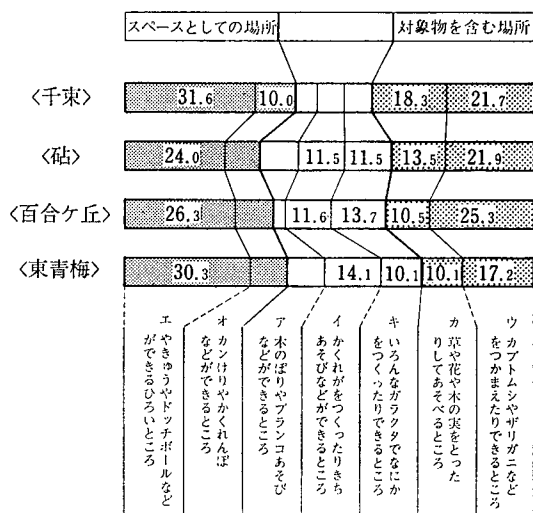


「操作物」を含めると異ってくることに注意すべきだろう。けれども、あそび活動において強調され勝ちな男女差の中に、何らかの一般的な同一性があることを期待することができよう。なお年齢別構成には、ア。「木のぼりやブランコあそびなどができるところ」（最も割合の大きい8歳児でも1割である。）が高年齢になるに従い漸減することの他には、年齢的な傾向は見られなかった。

次は、子どもの希望するあそび場所を地域別に見たい。その集計及び地域毎の項目順位を、表9及び図13に示す。各地域共にエ.ウ.がそれぞれ1、2位となっているが、〈千束〉と〈東青梅〉では特にエ.の野球等ができる広い場所への希望が他項よりも多い。設問が二項選択なので希望の割合は他項との関係で決まる故、両地域でのエ.の割合を直接同じ希望の強さで見做すことはできないが、〈千束〉では女子の多かったことを考慮しても、その稠密な建物状況から、とにかく広い空地がほしいということと思われる。〈東青梅〉には図4からもわかるように比較的空地も多く、当該地域周囲には野球のできる公園が整備されている。この〈東青梅〉でのエ.の希望の多さは、前節(2)に見たように、この地域の子供達の間にも他地域よりも球戯への指向が強いことによると考えられるが、また子供達がボール遊びに自由に利用できるスペースが図上に表わされた空地よりも意外に少ないということかもしれない。〈千束〉〈東青梅〉とは違って〈砧〉〈百合ヶ丘〉ではエ.とウ.がほぼ同率を示している。ウ.が高率なのは、やはり前節に見たようにこの両地域で「ムシをつかまえる」あそびが他地域よりも多かったことに対応しており、カブトムシ等に対する興味が高い地域と言える。そして、子供達のだあそびの現状とあそび場所への希望が、高率を占める項目である程度対応している（〈千束〉でのエ.の多さを除いて）ことがわかる。

他の顕著な特徴としては、〈千束〉で「草花や木の実をとったりしてあそべる」場所への希望が多

図 14 子どもの希望するあそび場所の構成（地域別）



いが、これはこの地域の回答者に女子が多いことにもよる。また、「木のぼりやブランコあそびなどができる」場所は、どの地域でも低い率に留まっている。

表 9 から地域別の構成図をつくと図14のようになる。各項目の並べ方は、左側に主にあそびの媒体空間乃至スペースとしての場所のエ.とオ.を、右側にあそびの対象物（ここでは自然物のカブトムシや草花等）を既存要素として含む場所のウ.とカ.を、そして中央部に主にあそびの操作物（ここでは「ガラクタ」等）を含む場所のキ.などを配した。スペースとしての場所への要求は、空地の極めて少い〈千束〉で最も大きな割合を占めているものの、各地域の空地状況に対応しているとは言えない。むしろ〈千束〉に続いて空地の少いと言える〈砧〉で最も小さい割合を示している。この地域の子ども達のあそびの現状において、スペースとしての場所にかかわる球戯等のあそびが少いわけではなかった。これは他項に対する要求が他地域よりも強いことによるためかもしれない。また〈砧〉の南約 8 km には大きな砧公園があり、より広域的な空地状況が影響していることも充分考えられる。

次に対象物を含む場所について見ると、やはり自然の最も少い〈千束〉ではウ.とカ.が全体の 4 割を占め、他地域よりも希望が多い。これに対し、周囲に丘陵を控えた〈東青梅〉で最も小さな割合となっている。〈砧〉〈百合ヶ丘〉ではその中間となっており、対象物を含む場所への希望は、地域周辺の自然環境の多少に反比例的に対応している。さらに〈千束〉ではエ.オ.及びウ.カ.を合わせると 8 割強を占め地域環境の子ども達のあそび活動にとっての過密さと、子どもが興味をもって手にすることのできる自然物の少さがよく示されている。他地域では、中央のア.イ.キ.を合わせた部分も 3 割前後あって、〈千束〉に比して多様なあそび場所を希望する余裕があると言える。また、都市的な極めて稠密な環境の中では、子ども達は最低限の要求として、スペースをもつ場所と同時に、あそびの対象となる自然物の存在する場所をまず望んでいる、ということが予測されよう。

(4) 親が必要と思う子どものあそび場所

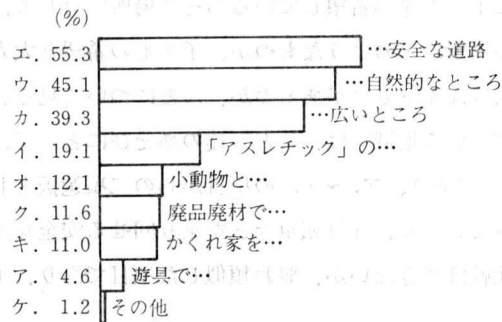
本節では、前節に述べた子ども達が希望しているあそび場所に対して、その父親あるいは母親達が必要と思う子どものあそび場所はどのようなものか、子どもの希望と大人が必要と考えるものは相似しているのか、それとも大きなギャップがあるのか、などについて見る。

設問は、「あなたのお住まいの地域では、こども達のあそびにとって、どのようなあそび場所がもっと必要だと思いますか。」であり、ア～ケの項目からの二項選択とした。なお子どもに示した選択項目とは表現がやや異っていたり、「自転車などを乗り回せる安全な道路」のような新しい項目を加えたために結果を直接比較はできないが、概ね類似した項目であり、子どもと大人との相似と相違

表 10 親が必要と思う子どものあそび場所(全地域)

	総 計		男女別集計				年 層 別 集 計 (代)				ア～ケの内容		
			男		女		20	30		40		50～	
ア	8		4		4		0	1		4		3	ア. いろいろな遊具 であそべるところ
	4.6	2.4	5.6	2.9	4.0	2.0		1.1	0.5	5.6	2.9		
イ	33		12		21		0	15		18		0	イ. 「アスレチック」 のようなあそびが できるところ
	19.1	9.8	16.7	8.6	20.8	10.7		15.8	8.0	25.4	13.1		
ウ	78		36		42		1	51		25		1	ウ. 虫や小魚などの 生息する自然的な ところ
	45.1	23.2	50.0	25.7	41.6	21.4		53.7	27.3	35.2	18.2		
エ	87		34		53		1	46		37		3	エ. 自転車などを乗 り回せる安全な道 路
	50.3	25.9	47.2	24.3	52.5	27.0		48.4	24.6	52.1	27.0		
オ	21		5		16		0	11		10		0	オ. いろいろな小動 物と接することが できるところ
	12.1	6.3	6.9	3.6	15.8	8.2		11.6	5.9	14.1	7.3		
カ	68		33		35		0	36		30		2	カ. 野球やサッカー などができる広い ところ
	39.3	20.2	45.8	23.6	34.7	17.9		37.9	19.3	42.3	21.9		
キ	19		9		10		0	14		5		0	キ. かくれ家を作っ たり基地あそびな どができるところ
	11.0	5.7	12.5	6.4	9.9	5.1		14.7	7.5	7.0	3.6		
ク	20		6		14		0	11		8		1	ク. いろいろな廃品 廃材で何かを作っ たりできるところ
	11.6	6.0	8.3	4.3	13.9	7.1		11.6	5.9	11.3	5.8		
ケ	2		1		1		0	2		0		0	ケ. その他
	1.2	0.6	1.4	0.7	1.0	0.5		2.1	1.1	0	0		
T ○数	336		140		196		2	187		137		10	付された○数 人数比% 構成比%
	194.2	100.0	194.4	100.0	194.1	100.0		196.8	100.0	193.0	100.0		
T 人数	173		72		101		1	95		71		6	

図 15 親が必要と思う子どものあそび場所（総計）

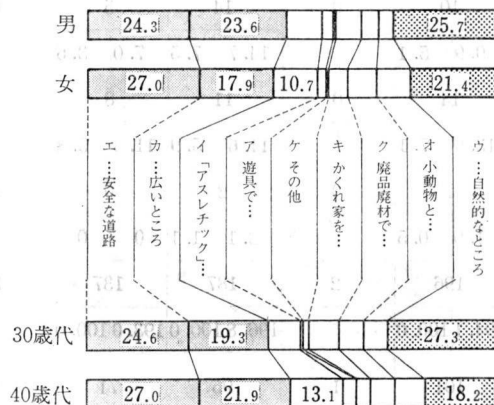


は把握することができよう。

全地域での集計を表10に掲げ、総計における順位図を図15に示す。子ども達が最もよくするあそびとして第1位に掲げた「じてんしゃのり」に応ずるように、親の半数がエ、「自転車などを乗り回せる安全な道路」を第1に必要なと思っている。このことは、現状の「じてんしゃのり」の自動車交通との共存の危険性を、親がどれほど心配しているかをよく表わしているものと思われる。続いてウ、「虫や小魚などの生息する自然的なところ」が、45%、カ、「野球やサッカーなどができる広いところ」が39%であり、他項はすべて2割以下となっている。自然的な場所と広い場所が共に大きな割合で必要とされているのは、子どもの希望とも相似している。またア、「いろいろな遊具であそべるところ」を選んだ大人は173人中8人と極めて少い。但し、子どもの感覚運動的なあそび活動にとっては類似した機能をもつと考えられるイ、「アスレチックのようなあそびができるところ」に2割弱の要求があることに注意すべきだろう。

父親と母親、あるいは年代によってどのような差があるだろうか。それを図16に示した構成図によって見る。男女別では各項目の構成に大きな差はない。エ.とカ.の、あそびの媒体空間（ここでは線

図 16 親が必要と思う子どものあそび場所の構成（男女別、年層別）



的面的なスペース)としての場所への要望が男では全体のほぼ5割、女でも4.5割を占めている。但しエ.の「…安全な道路」はやや母親に多く、カ.の「…広いところ」は父親に多くなっている。さらにウ.とオ.の、あそびの対象物を含む場所については、男女共に全体の約3割を占めている。この内、ウ.の「…自然的なところ」は父親に、オ.の「いろいろな小動物と接することができる場所」は母親に多い。また構成図からは父親よりも母親の方がやや多様性をもって子どものあそび場所を把握していることが伺える。

次に年層別(ここではサンプル数の極めて少い20歳代、50歳代以上は除いた。)では、30歳代の親はまずウ.「…自然的なところ」を、次いでエ.「…安全な道路」、カ.「…広いところ」という順序で選んでいるのに対して、40歳代の親はまずエ.「…安全な道路」を掲げ、次いでカ.「…広いところ」、ウ.「…自然的なところ」という順になっている。これは、30歳代の親に、より低年齢の子どもが、40歳代の親に、より高年齢の子どもがいると考えられ、低年齢の子どもをあそび活動ほど子どもが手にすることのできる対象物等にかかわり、高年齢の子どもほど動的なあそび活動が活発になるということ(今回の調査では明らかにならなかったが)を親が経験的に了解していることによる結果と思われる。しかし各項目の割合の年代間の差は、ウ.の1割弱の差が最大であり、比較的少ないものと言える。

親が必要と思う子どものあそび場所を地域別に集計すると表11となり、地域別の構成を示すと図17のようになる。なお地域間の比較をする場合、上述したように男女差、年代差が総じて小さいものであるとは言え、節(1)に示した地域による男女比、年層比の大きな相違には充分注意する必要がある。

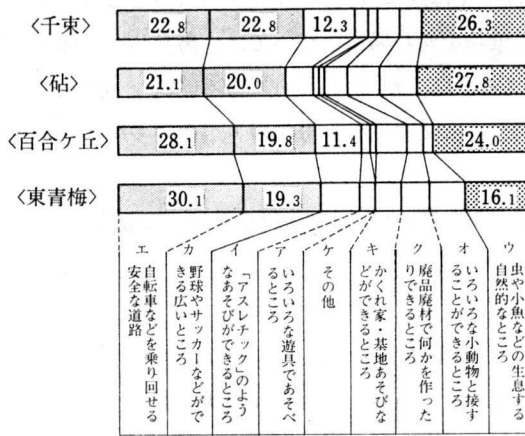
まず地域毎の項目順位は、〈千束〉と〈砧〉においてはウ.「…自然的なところ」がそれぞれ半数の回答者に選ばれ、次いでエ.「…安全な道路」とカ.「…広いところ」が双方共ほぼ4割となっている。これに対して〈百合ヶ丘〉と〈東青梅〉ではエ.「…安全な道路」が回答者の過半数に選ばれ、続いて〈百合ヶ丘〉ではウ.(5割弱)、カ.(4割弱)、〈東青梅〉ではカ.(4割弱)、ウ.(3割強)

表 11 親が必要と思う子どものあそび場所(地域別)

(二項選択)

	〈千束〉			〈砧〉			〈百合ヶ丘〉			〈東青梅〉		
	実数	人数比	構成比	実数	人数比	構成比	実数	人数比	構成比	実数	人数比	構成比
ア	2	6.7	3.5	1	2.2	1.1	2	4.1	2.1	3	6.3	3.2
イ	7	23.3	12.3	6	13.0	6.7	11	22.4	11.4	9	18.8	9.7
ウ	15	50.0	26.3	25	54.3	27.8	23	46.9	24.0	15	31.3	16.1
エ	13	43.3	22.8	19	41.3	21.1	27	55.1	28.1	28	58.3	30.1
オ	3	10.0	5.3	8	17.4	8.9	2	4.1	2.1	8	16.7	8.6
カ	13	43.3	22.8	18	39.1	20.0	19	38.8	19.8	18	37.5	19.3
キ	1	3.3	1.7	5	10.9	5.5	7	14.3	7.3	6	12.5	6.5
ク	3	10.0	5.3	7	13.0	7.8	4	8.2	4.2	6	12.5	6.5
ケ	0	0	0	1	2.2	1.1	1	2.0	1.0	0	0	0
T〇数	57	190.0	100.0	90	195.7	100.0	96	195.9	100.0	93	193.8	100.0
T人数	30			46			46			48		

図 17 親が必要と思う子どものあそび場所の構成（地域別）



となる。ウ、エ、カが地域をも問わず必要とされていることがわかるが、同時に地域毎の自然環境の多少や空地状況にはほぼ応ずる結果と言える。構成図を見てもこのことは明らかである。ここで〈砧〉のウの割合の大きさに関しては、回答者に30歳代の親が多かったこと（ウの割合の小さい母親が多い以上に）が多少の増幅要因となっているとも思われる。けれども男女比、年層比の相違（図7、8）と図16の男女差、年層差を考慮してもなお、構成図から地域間の概ねの傾向を読み取ることができると考えられる。

構成図からは、ウ「自然的なところ」の割合が〈東青梅〉に特に少いが、これは、子どもの希望するあそび場所における〈東青梅〉での傾向とも相似しており、〈東青梅〉周辺に、他地域に比べて自然のストックが豊かであることを物語っている。しかしオ「いろいろな小動物と接することができるところ」は、自然環境との関係を示してはいない。カ「…広いところ」の全体に占める割合は各地域ではほぼ2割であるが、エ「…安全な道路」については都心により近い2地域よりもむしろ郊外の2地域に大きな割合を占めている。他項との関係で選ばれることにもよるが、前者2地域には車のスピードが出せないような路地が多いことも原因していると思われる。

以上の大人の結果を子どもの希望するあそび場所に比べてみた場合、大きなギャップはなく、総じて子どもの結果に相似たものと言えよう。地域の自然環境、空地状況の差からくと思われる多少の地域的相違があるものの、各地域共に、道路の安全性、虫等の生息する自然、そして球戯等のできる広場の三者がまず必要とされたわけである。

4 調査結果が指示すること

(1) 調査結果の要約

今回の調査の結果から、まず、調査の主たる目的と言える「どのような」あそび場所を子ども達は

望んでいるかということについてその要点を記せば

- ・総計では、1)野球等のできる広い所、2)カブト虫等を捕えたりできる所の順に、他項を引き離して希望されている。(図11)
- ・しかし男子では、1)と2)は双方共6割強の高率で望まれており、女子でも、1)と、草花や木の実等を採ったりしてあそべる所がほぼ同率の4割強の子どもに望まれている。(図11)
- ・希望されたあそび場所の全体の構成を男女別に見ると、一つ一つの項目については男女差が大きい、スペースとしてのあそび場所及び対象物を含むあそび場所の各々の構成比は、それぞれ男女共にほぼ等しいものとなった。(図12)

次に、望まれるあそび場所の地域的相違については、図1～4に見られる空地の多少との対応は明瞭には確認できなかったが、

- ・カブト虫や草花等の対象物を含むあそび場所への希望は、〈千束〉で最も多く〈東青梅〉で最も少ないものとなり、地域周辺の自然環境の多少との反比例的な対応が見られた。(図14)
- ・特に空地も自然環境も少い〈千束〉では、希望が他地域よりも多様性の少い傾向を見せ、スペースとしてのあそび場所、対象物を含むあそび場所の両者の割合が大きく、他項目の割合は相対的に小さくなっており、都市の極めて稠密な環境の中で、子ども達は、スペースとしての場所(広さをもつ場所)と同時に、あそびの対象となる自然物を含む場所を要求していることが推測される。(図14)

ここで子ども達が希望しているあそび場所と、現在よくしているあそびとの関係を簡単に見ると、(図9、10、14)

- ・最も多くの子どもによくあそばれている自転車乗りで、やはり男女、年齢、地域を問わず球戯がよく行われており、子ども達にとっての球戯への指向の強さは、そのまま広いスペースをもつあそび場所への希望に反映していると考えられる。現在もよくやっているが、もっと場所がほしい、ということであろう。
- ・しかし地域別に見ると、空地の最小である〈千束〉では他地域よりも、現在やっている球戯の割合は少いが広い所への希望は大きい。
- ・虫や草花等の対象物にかかわるあそびは球戯ほどよく行われていないが、それらの対象物を含むあそび場所への希望は男女共に大きく、環境の現実と子ども達の希望とのギャップは、スペースとしての場所以上に大きいと言えよう。また、やはり〈千束〉においてそのギャップが特に大きく、〈東青梅〉では比較的小さくなっている。
- ・なお、子どもがよくするあそび一つ一つの行われる割合には男女差があるものの、主にスペースとしての場所にかかわるあそび及び対象物や操作物を含む場所にかかわるあそびがあそび全体に占める割合は、それぞれ男女双方においてはほぼ等しくなった。

次に、親が必要と思う子どものあそび場所と子どもの希望するあそび場所乃至よくしているあそびとの関係では、

- ・子どもが最もよくしている自転車乗りに応じるように、親の最も多数が安全な道路を必要としている。殊に地域内に比較的スピードが出せる道路の多いと思われる郊外の2地域にその割合が大きくなっている。(表5、図17)
- ・安全な道路と大差なく、虫等の生息する自然的な所及び野球等のできる広い所が必要とされており、これは子どもの希望にもよく対応している。地域毎に見てもほぼ対応していることがわかる。(図14、15、17)

以上、調査結果から主に調査の主旨に関する事項を要約して述べた。最後に、この結果から示唆される、子どものあそび場の計画における一つの問題点を明確化しておきたい。

(2) 子どものあそび場の計画における問題点

一般的に、「場所」をその形態的側面(場所形態)と内容的側面(場所内容)に分けて把握することができよう。場所形態とは、面的線的な広がり、形、傾き等であり、場所内容とは場所が含んでいる諸々の要素である。ここであそび場所を実際のあそびの活動空間とすれば、例えば固定遊具等は一つのアそび場所を形成しており、その形や大きさは場所形態に当るものと言える。

子どもの戸外でのあそび活動は、①場所形態に強くかかわるもの、②場所内容に強くかかわるもの、③場所形態にも場所内容にもあまりかかわらないもの、に一応区別され得ると思う⁽¹²⁾。③から言えばこれには子どもが持ち歩く遊具(ヨーヨーやゲームウォッチ等々)を使つてのあそび等がある。①の場所形態に強くかかわるものには、球戯、自転車乗りをはじめ、鬼ごっこ等、ゴムとび等、土手すべり等、身体活動乃至身体操作中心のあそびが含まれる。これらは身体活動乃至身体操作に適した支えとしての場所を必要とするものである。次に②の場所内容に強くかかわるあそびには、虫取りや魚取り、草花摘み等をはじめとして、水あそび、砂あそび、路傍での泥あそび、捨てられてある廃材を用いて基地をつくる等、対象物そのものを指向するもの乃至対象操作が中心であり、場所に含まれる要素乃至素材を必要とするあそびを包含する。

今回の調査では、子ども達の希望するあそび場所として、場所形態に強くかかわるあそび場所(野球等ができる広い所即ちスペースとしての場所)と同時に、男子、女子共に場所内容に強くかかわるあそび場所(カブト虫や草花をとったりしてあそべる所即ち対象物を含む場所)に対する希望も同等に強いことがわかった。そして、場所形態としての広がりのあるあそび場所は子ども達やその親にまだまだ望まれてはいるものの、児童公園等の整備手法をはじめとして多くの研究がこのあそび場所の形態的側面に応じてきている。けれども、場所内容については、対象物を必要とするあそびの現状とそれができるあそび場所への強い希望にギャップの存在が予測されたわけであるが、体系的に追求されてきているとは言い難い⁽¹³⁾。

都心の市街地にカブト虫の生息する環境を形成することは非現実的にしても、子ども達が手に取つてあそべる諸々の対象物や操作物を、環境全体の各所が含むべきではないか。それには場所形態のみならず、場所内容についてもあそび活動との関係を体系的に追求してゆく必要があると思われる。

お わ り に

今回の調査では回収されたサンプル数も少なく、確実な推測はできなかったが、調査の主旨に関する事項の概略的傾向をある程度把握することはできたと思う。勿論、調査対象者、対象地域、調査季節、あるいは設問の選択項目等の調査条件をより整理、吟味し、またそれを変化させて、今回予測された事柄を子どもの多様なあそび場所に応ずる一般論へ向けて確かめてゆかねばならない。

本稿を終えるに当って、調査結果の捉え方に関しても貴重な助言を与えて下さった加藤隆明治大学助教授、そしてアンケート調査に協力して下さいました方々に感謝いたします。

注

- (1) もし望まれるあそび場所に大きな地域的相違があるならば、ほぼ一律化された児童公園にも地域的多様化が追求されるべきであろう。
- (2) もっとも「どのようなあそび場所」が望まれるかを具体的にまた詳細に明らかにするには、その地域のあそび場所となる可能性がある環境各所を、子ども達のあそび活動との関係において調べることも必要である。
- (3) 子ども達のあそび活動にとっては、図上では同じ空地であっても利用可能性の大小が問題となるが、残念ながらそれを詳しく図示することはできなかった。
- (4) 調査票配布時に、切手貼付の返信用封筒を同封した。
- (5) 24項目のほとんどは戸外あそびとした。さらに、記述回答として「ほかによくやるあそび」を記入する欄もある。
- (6) 子どものそれぞれ意味の異ると考えられるあそび活動との関係を考慮したものである。あそび場所の意味論的区別については、こどものあそび場所の諸相—こどものあそび場の研究、序論—明治大学大学院紀要第19集(5) 昭和57年2月にて扱った。
- (7) 年齢別の結果を見る場合、11歳児についての集計、図は極めて不確かなものと言えるが、参考とするためあえて示してある。
- (8) これは、住民票のマスターリストから宛名を書き写す段階で、母親宛が多くなったためと思われる。
- (9) 広原盛明他、市街地における子供の遊び場と自動車交通規制に関する調査研究(その1)、建築学会論文報告集、昭和45年9月、片木克男、小学校児童の遊びと遊び場所に関する調査研究—地方中小都市の場合、その1 児童の発達段階にみる外遊びの実態、建築学会中国支部研究報告集、昭和55年10月、など。
- (10) あそび活動に適した広がりを持ち、あそび活動にとっては媒体的な役割を果すにとどまるような場所を「スペースとしての場所」とした。
- (11) あそびの対象物と操作物については、こどものあそび場所の諸相—こどものあそび場の研究、序論—明治大学大学院紀要第19集(5)、p. 6 に述べた。
- (12) この区別は未だ厳密なものではないが、あそび場所を、子どものあそび活動との関係の下に、実際的に大別して捉えるには比較的有効であると思われる。
- (13) 最近の研究としては、室崎生子他、都市における子供の遊び場に関する研究、建築学会大会学術講演梗概集、昭和57年10月などがあそび場所の内容的側面を部分的に扱っている。